

SCARTSステージシリーズ

会場 SCARTSコート
入場料 無料
主催 札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)
後援 札幌市

ステージでの多様な表現に出会う

「SCARTSステージシリーズ」は、音楽やダンス、演劇など、ステージ上で繰り広げられるさまざまな表現との出会いの場を提供する公演シリーズです。2018年11月から2020年1月にかけて10回開催した「まちなかお屋のおんがくかい」の後継事業として、誰でも気兼ねなく参加できるよう、入場無料で開催しています。札幌を拠点に活動するアーティストによる多様な表現を積極的に紹介すると共に、クラシック音楽を学ぶ学生に発表の機会を提供するため、複数の大学と連携し、若手音楽家たちの演奏を届けています。



大学連携コンサート「日本の四季に耳を澄ませて」 以下、「SCARTSステージシリーズ」すべて、撮影・原田直樹



沢則行トーク&小公演「人形劇の惑星」



大学連携コンサート「繋がる作曲家たち」



鈴木明倫ダンス公演「Remember us」



大学連携コンサート「日本の四季に耳を澄ませて」

「日本の四季に耳を澄ませて」。ふたりのピアニストによる、それぞれのソロ演奏



沢則行トーク&小公演「人形劇の惑星」

「人形劇の惑星」。トークでは、観客からの質問に答えながら話を広げた



「人形劇の惑星」。人形と人間が渾然一体となるようなパフォーマンス

SCARTSステージシリーズ Vol.001

大学連携コンサート 北海道教育大学岩見沢校

日本の四季に耳を澄ませて～日本人現代作曲家のピアノ作品を中心に

日時 2020年8月4日(火) 14:00～14:40
 協力 北海道教育大学岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 音楽文化専攻
 助成 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)独立行政法人日本芸術文化振興会
 出演 竹田美奈子(ピアノ)、仲鉢莉奈(ピアノ)

大学連携コンサートの第一弾として、北海道教育大学岩見沢校の大学院生によるコンサートを開催しました。中田喜直「日本の四季」をメインプログラムに、日本の近現代作曲家が手掛けた季節を感じさせる曲目を、ふたりのピアニストがそれぞれソロで演奏しました。

SCARTSステージシリーズ Vol.002

沢則行トーク&小公演「人形劇の惑星」

日時 2020年10月20日(火) 18:00～18:50
 出演 沢則行
 アフタートーク 19:00～19:20
 協力 コンカリーニョステージワーク

チェコを拠点に世界各国で活躍する人形劇師・沢則行による短編作品の上演とトークを行いました。上演作品は「星」「豚」「魚」「たね」「赤ずきん」の5編。同氏が取り組むパフォーマンスは、人形だけでなく、人間やもの、影絵など、さまざまな要素が登場する「フィギュア・シアター」と呼ばれる舞台表現形式です。上演とアフタートークを通して、フィギュア・シアターの奥深い魅力をわかりやすく紹介しました。



大学連携コンサート「繋がる作曲家たち」



「繋がる作曲家たち」。19世紀から現代までが、曲を通してつながる



鈴木明倫ダンス公演「Remember us」



「Remember us」アフタートークの様子
左から、森嶋拓、鈴木明倫、山木将平



「Remember us」。ダンスと音楽がせめぎ合う、緊張感のあるステージ

SCARTSステージシリーズ Vol.003

大学連携コンサート 札幌大谷大学 芸術学部 音楽学科

繋がる作曲家たち～西洋の風を運んで～

日時 2020年10月26日(月) 16:00～16:40

出演 信濃りかこ(ピアノ)

協力 札幌大谷大学 芸術学部 音楽学科

助成 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

地域の大学と連携し、クラシック音楽を学ぶ学生に発表の機会を提供することを目的として開催する大学連携コンサートの第2弾として、札幌大谷大学芸術学部音楽学科の在学生によるピアノコンサートを開催しました。ドビュッシー、リストなど、19世紀の西洋の作曲家による曲目から現代の作曲家によるものまで幅広く演奏し、ピアノ曲によって時代をつなぐようなコンサートとなりました。

SCARTSステージシリーズ Vol.004

鈴木明倫ダンス公演「Remember us」

日時 2021年2月25日(木) 17:00～17:50

出演 鈴木明倫(ダンス)、山木将平(ギター)

アフタートーク 18:00～18:30

出演 鈴木明倫、山木将平

聞き手 森嶋拓(北海道コンテンポラリーダンス普及委員会)

札幌市内で活躍するダンサーの鈴木明倫とギタリストの山木将平がコラボレーションし、「自然への回帰」をテーマにダンス作品を上演しました。アフタートークでは、コロナ禍で自身と向き合ななかで中国の禅の教えを示す「十牛図」をダンスのモチーフとした経緯など、制作の背景が語られ、作品理解を深める機会となりました。